

# 一般会計決算に対する討論

平成24年度一般会計決算は、9月定例会最終日に認定されました。この議決に先立ち、同決算に対する討論が行われ、3人の議員から賛成意見が、3人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

## 賛成

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容

●歳入では、市税が5年ぶりに増収となるなど、明るい兆しが見え始めたが、引き続き

●平成24年度決算を財政健全化の観点から見ると、自主財

●決算を見る場合、事業内容



昨年10月、市役所内に職業相談や紹介などを行う「ジョブスポットあやせ」がオープンしました。以前は大和市にあるハローワークまで出向かなければなりませんが、仕事探しが身近でできるようになりました。<市役所1階ジョブスポットあやせにて>

## 反対

●24年度事業は、小児医療費の小学校6年生までの引き上げなど、評価できる項目がいくつかある。しかし、問題点として、住宅リフォーム助成は、希望者が多いのに、来年度以降の実施が未定である。

(仮称)綾瀬インターチェンジ関連に2500万円弱が使われた。東名高速道路からの受け入れ道路が寺尾上土柵線だけで、出入口をT字交差点として接続すれば、大渋滞が発生する。市民は海老名の出入口が利用でき、排気ガスが増えることで、新たなぜんそく患者を作らないために、この事業の問題を指摘する。重度障害者医療費助成では、65歳以上の新たな対象者を除外したのもこの年度からで、年収が少ない高齢者を差別するものである。学校施設の老朽化が進んでいる。日常は児童・生徒が学び、災害時には地域の避難所にもなる。

●平成24年度決算の評価すべき点として、市庁舎内へのジョブスポットあやせの開設がある。市民が職を探すために、大和市まで出かけなくても済み、利用者が増えていると聞いている。また、小児医療費は、対象年齢を小学校3年生から6年生まで拡大した。保護者の経済負担を軽減したため、医療を受けやすくなったのではないかと。一方、問題点として、都市計画道路寺尾上土柵線の北伸がある。この事業は、寺尾地区のコミュニティを壊すものであり、市の発展や防災に大きな役割を果たさない。深谷落合地区の工業系区画整理事業は、責任者が市ではなく、区画整理事業組合である。リスクは地権者が負うもので、地権者としては納得がいかないと思う。図書館などで、指定管理者が導入されている。図書館では、利用者が増加し利便性も向上したが、低賃金労働者を増やすことになる。アグリパーク基本構想の策定は、構想策定の段階から、主体となる農家と農協などとの連携・協力が不可欠だが、不十分さを感じられる。寺尾上土柵線の北伸と深谷落合地区の工業系区画整理事業、アグリパーク構想は、新時代あやせプラン21の後期基本計画に位置付けられていることから、計画の見直しが必要であるという意見を

●平成24年度予算では、インターチェンジ設置の必要性に、多くの市民が疑義を持っていることを伝え反対した。綾瀬インターチェンジ設置に伴うまちづくり指針で示された活性化案は、既存商工業の活性化、新産業拠点の創出と企業誘致による持続可能な都市の構築、アグリパーク構想の具現化、タウンセンターの充実によるふれあいの拠点づくりである。これらはインターチェンジがなくともやるべきことで、インターチェンジを使って本市に魅力あるソフト事業の提示がない。このままでは、本市を通過して湘南地域へ向かう観光客のためのインターチェンジになりかねない。アグリパークは、藤沢市が進めるファーマーズパークとの競争にさらされる。タウンセンターは既存のショッピングセンターがあり、規模拡大がなければ充実は見込めない。何より、深谷落合の土地区画整理事業が頓挫し、今後の見通しさえ難しくなった。これらの課題が解決し、市民が期待に胸を膨らませるようなまちづくりが示されない限り、渋滞覚悟でインターチェンジ設置を歓迎することは厳しい。インターチェンジ設置が目的化するのはなく、ソフト事業を充実させて、東名高速道路を使ってまで本市に来てもらうには、インターチェンジが必要という理論を市民に示すことを希求し、本決算に反対する。

(改革フォーラムの一部)

※( )は、会派名です。記載のないものは、会派を組んでいない議員の意見です。

述べ、本決算に反対する。